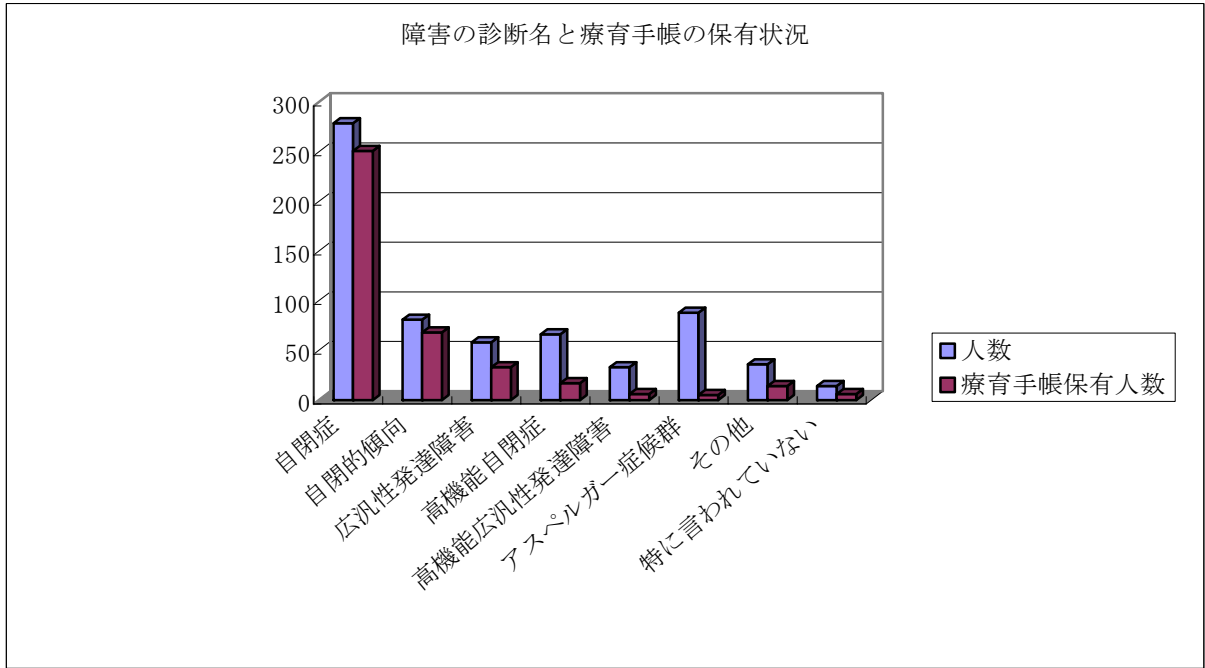


# 自閉症支援システム整備のための調査報告書（個人調査結果 抜粋）

## 1) 障害の診断名と療育手帳の保有状況



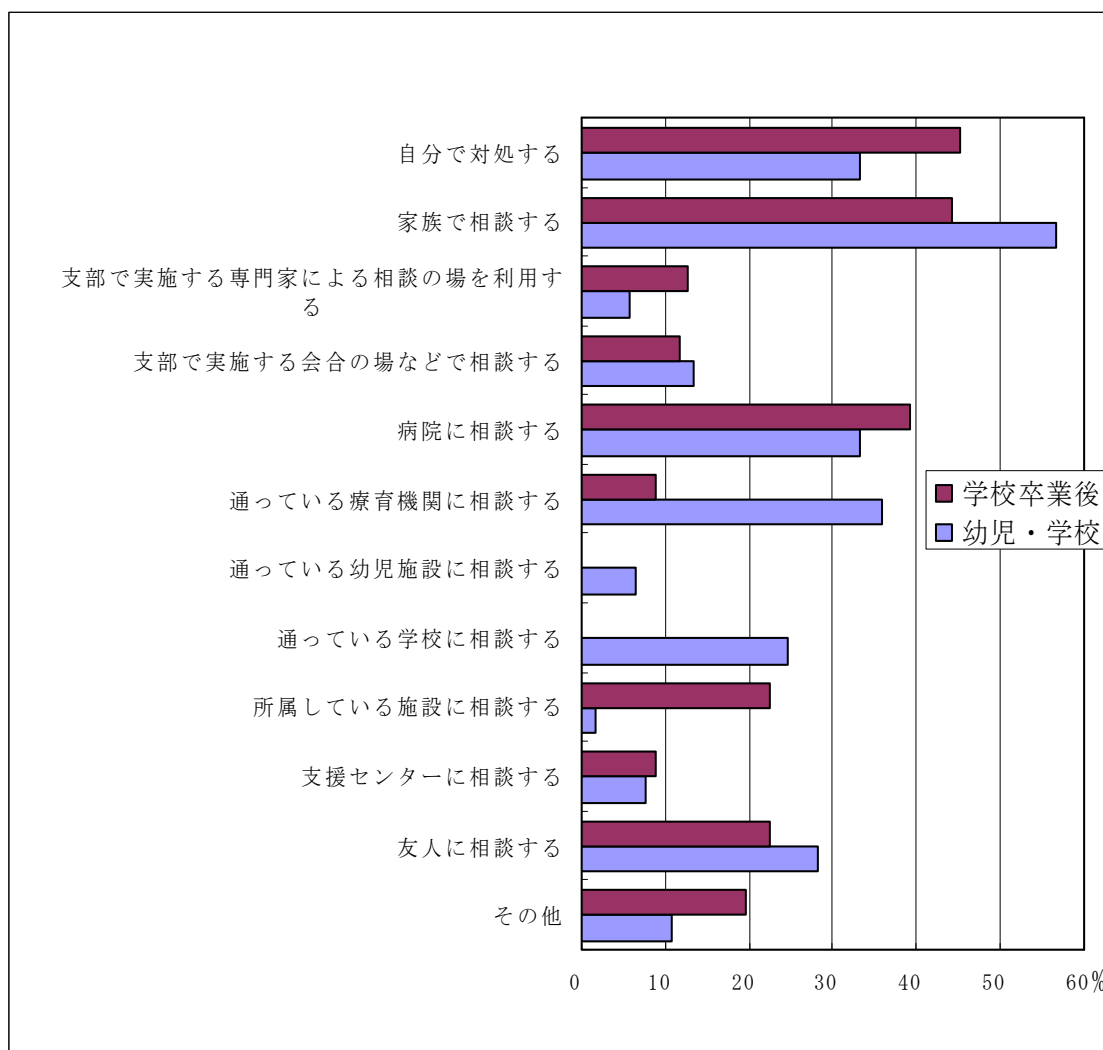
- (1) 高機能自閉症、高機能広汎性発達障害、アスペルガー症候群については特に療育手帳の保有率が低く、福祉的な支援を受ける上では不利な状況にある。
- (2) なお、精神障害者保険福祉手帳の保有状況については、他の診断名では所有者が僅かにとどまるが、アスペルガー症候群では療育手帳を大きく上回る。(グラフには表示していない)

## 2) 自由な時間の過ごし方（3つ以内で選択）

	幼児・学校		学校卒業後	
	率	順位	率	順位
家事手伝い	8.6		21.6	7
読書	24.5	3	27.5	4
音楽鑑賞	10.5		23.5	5
テレビ・ビデオ鑑賞	66.9	1	52.9	1
絵画	12.5		8.8	
パソコン・ワープロ	33.7	2	38.2	2
散歩	16.1		23.5	5
買い物	14.8		28.4	3
乗り物に乗る	11.2		17.6	
スポーツ（プール、ボーリングなど）	8.6		11.8	
カラオケ	0.7		2.9	
友人と遊ぶ	8.4		2.0	
サークル活動	2.2		5.9	
その他	31.3		37.3	

- (1) 順位は 20%以上のもの限定して表示した。
- (2) 幼児・学校期、学校卒業後のいずれでも、テレビ・ビデオ鑑賞が高い。
- (3) 学校卒業後については、幼児・学校期よりも過ごし方の分散が見られる。

### 3) 障害のことで困った時（3つ以内選択）



(1) 「自分で対処する」「家族で相談する」「病院に相談する」の多さが目立つ。この場合、自分は回答者である母親あるいは父親であると想定する。(誰であるかは聞いていない)

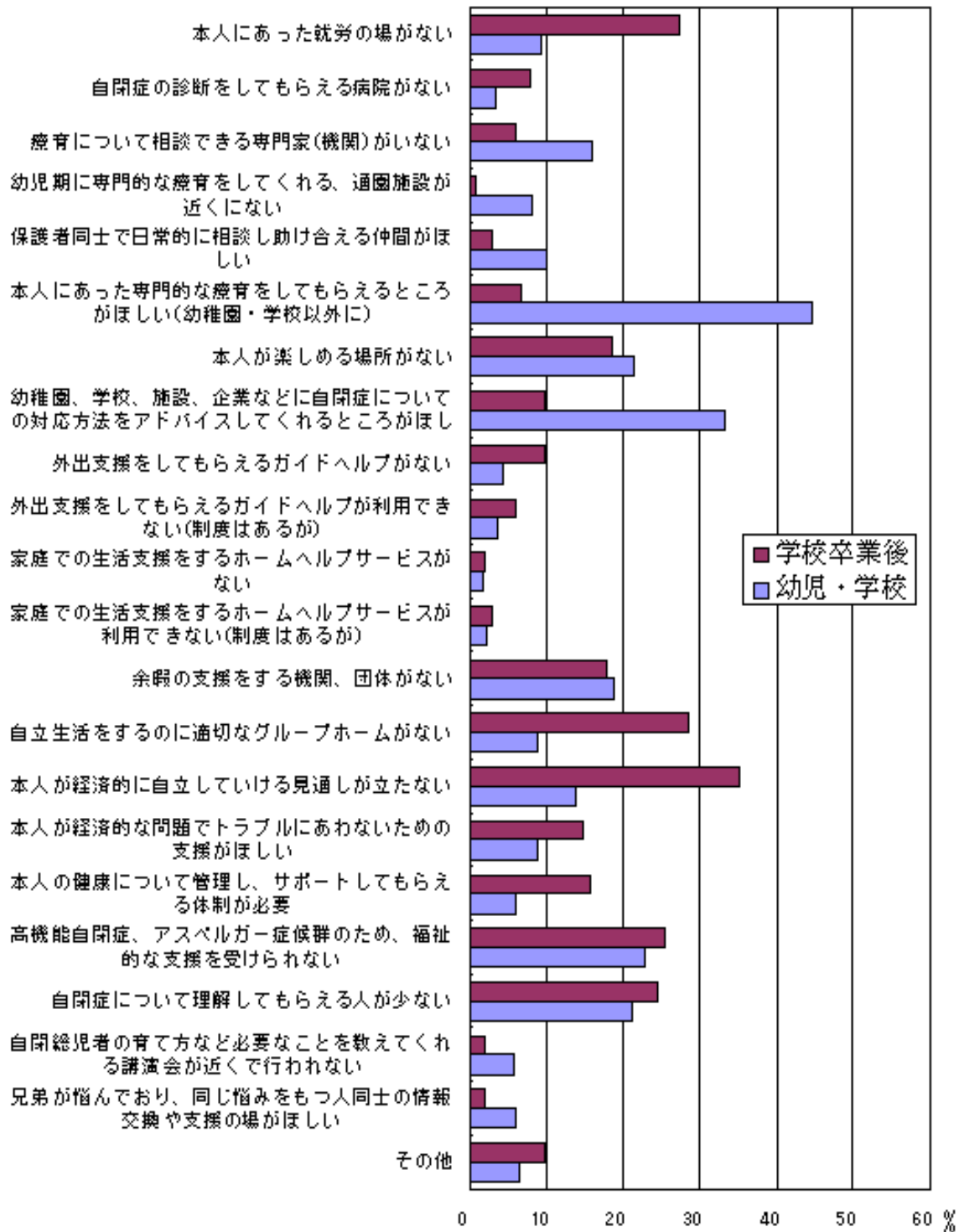
なお、他の項目は年代により所属するところに違いがあるために分散しているように見えるが、それぞれ所属する学校、施設などに相談するとの回答も比較的高率である。

(2) 協会の各支部においても、困っている人に対して各種の支援・相談(保護者同士の経験談、情報交換含む)を行っており一定の効果をあげていると判断している。

なお、会員以外の回答者も多く、支部の相談業務を利用できない人が多数含まれることや、支部の活動については県ごとに、さらには地域ごとに違いがあることが組織調査の中から明らかであり、地域別にみて評価が高いところがあっても、合計で見れば評価が低くなってしまっていることが想定される。

今後、これらの点についてもさらに検討を加え、本部としても支部の支援を行い、すぐれた取り組みを全国に広げていくことで成果をあげられる可能性がある。

4) 今困っていること、必要と感じているものを次の中からお選びください。(3つ以内選択)



- (1) 「幼児・学校」の時期は、専門的な療育をしてもらえるところを求める声が強い。また、幼稚園、学校などに対しても対応方法のアドバイスを求める声が多く、療育に関する人的資源や直接支援の場を充実させることが求められている。
- (2) 学校卒業後においては、経済的な自立の見通し、グループホーム、本人にあった就労の場を求める声が強く、自立できるような環境づくり、資源の整備が求められる。
- (3) 高機能自閉症、アスペルガー症候群の方々について、福祉的な支援を受けられないための改善が必要である。要望の順位は1位ではないが、該当者の比率を考えると極めて高い要望であることが読み取れる。

以上